

## 絆通信 レポート版 (号外)

### 時代に逆行した議会

「定数増に反対する市町議員有志の署名趣旨より」平成の合併により県内69市町村は村が消え29市町となりました。そのうち27市町議会で総定数626人の約2割にあたる116人の議員を減らしています。いずれの市町も厳しい財政下で議員自身を削る改革を進めるなか、地方議員の模範となるべき県議会が保身に走るようでは三重県政の先行きが案じられます。

このまま選挙を迎えると、一票の格差は前回より拡大し法的観点からも是正が必要であります。

伊賀市3	90,581人	1.66
名張市2	78,795人	1.28
熊野半婁2	34,347人	2.70
鳥羽市1	19,448人	2.58

平成27年  
国勢調査より



#### 議会に寄せられている県民の声

- 自分たちの保身ではなく、もう一度削減議論をはじめて本来の県民のための県議会の姿を見せてください。
- 本当に定数51は必要ですか定数を減らして福祉、教育インフラ整備などに充当して欲しいです。
- 県民抜きの議論で県民の税金の無駄使いです。

# これでいいのか！ 三重県議会!!

## 削減案を賛成23・反対24の僅差で否決

☆三重県議会は9月14日の本会議で、自由民主党県議団等が提出した議員定数を51から45に削減する条例案を23対24の賛成少数で否決した。

☆これにより平成26年に議会自ら定数45の条例を制定したにもかかわらず、一度も選挙を行わず再び6増の定数51に戻る事となった。これは一票の格差を是正せず、議会改革と財政健全化を後退させるものであり、決して許されません。

**★一票の格差が再び約3倍！ 議会経費も4年で約5億円の増！これでいいのか！三重県議会!!**

議員定数を51⇒45に削減する条例・議決結果			
削減条例に反対の24議員		削減条例に賛成の23議員	
新政みえ		自由民主党県議団	
芳野 正英	津村 衛	木津 直樹	中嶋 年規
廣 耕太郎	杉本 熊野	田中 祐治	青木 謙順
下野 幸助	藤田 宜三	野口 正	中森 博文
田中 智也	後藤 健一	石田 成生	前野 和美
藤根 正典	日置 正信	小林 正人	水谷 隆
小島 智子	舟橋 裕幸	服部 富男	山本 勝
濱井 初男	三谷 哲央	津田 健児	
吉川 新	中村 進一	鷹山	
自民党		大久保 孝栄	奥野 英介
村林 聡	西場 信行	東 豊	
山本 教和	中川 正美	能動	
日本共産党		彦坂 公之	館 直人
山本 里香	岡野 恵美	長田 隆尚	
草の根運動いが		公明党	
稲森 稔尚	野村 保夫	山内 道明	今井 智広
		大志	新政みえ
9月14日採決 前田議長は除く		倉本 崇弘	中瀬古 初美

## 厳しい三重県の財政

### 経常収支比率 (財政構造の弾力性を判断する指標)

県税、普通交付金など毎年経常的に収入されるもので、地方公共団体が自由に使える財源のうち人件費、扶助費、公債費など毎年経常的に支出される経費に充てられた財源の占める割合のことで率が高いほど財政の自由度が低いことを示す。

$$\frac{\text{《経営経費充当一般財源》}}{\text{《経常一般財源》}} \times 100$$

1・大阪府	101.1	1・名張市	99.7	平成28年度 経常収支比率／財政構造の弾力性を判断する指標であり、比率が低いほど弾力性が高い。
2・三重県	99.8	2・桑名市	99.2	
3・愛知県	99.6	3・伊賀市	97.4	
47・東京都	79.6	29・川越町	67.8	
全国平均%	94.3	県内平均%	88.6	

### 県の財政を一般家庭に置き換えた場合

平成18年度から10年後の平成28年度にかけて収入面では、総額12万円(688万円⇒700万円)の増加。支出面ではローンの返済が増えているため24万円の増加、生活費を切詰めざるを得ない状況。

収入	18年度	28年度	(万円)	備考
給料	479	487		県税、地方交付税など
仕送り	120	109		国庫補助金など
貯金取崩	17	20		基金の取り崩し
ローン	72	84		地方債(臨時は除く)
合計	688	700		
支出	18年度	28年度	(万円)	備考
生活費	568	564		
ローン返済	97	121		
合計	665	685		
ローン残高	960	1,385		
貯金残高	35	10		財政調整の基金
貯金残高	29	18		その他特定目的基金